

2009 年度

4 年生の一年間

# Portfolio II

Works

SHIRAHAMA SHINPEI@YAMAZAKI Lab.

神戸大学工学部建築学科山崎研究室（生活環境計画研究室）

# Portfolio 2009.04.01~2010.3.31

# SHIRAHAMASHINPEI

## PROJECTS

## LITERATURE

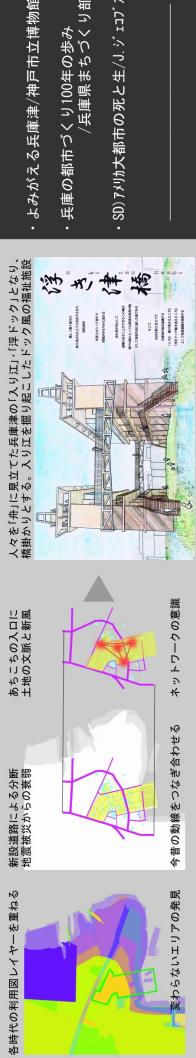
## WORKS

## DATE

授業「まちづくり論」  
・後藤祐介先生  
・森崎輝行先生

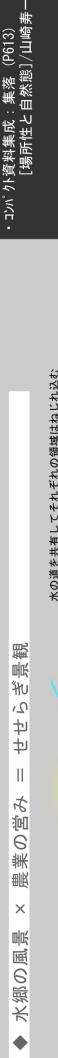
第一演習課題  
『兵庫津まちづくり』  
teacher:山崎寿一  
site:西出・東出

井同まちづくりテーマ  
『あつちでこっちで』  
第一演習課題  
『浮き津橋』



(沖島・円山・甲良町)  
授業「建築計画・設計論」

第二演習課題  
『農の風景』  
teacher:武田史朗  
site:泉北ニュータウン



・木原利先生  
・八幡充治先生  
・宮本佳明先生  
特別講演会  
・安藤忠雄先生

第三演習課題  
『江の風景』  
teacher:山崎寿一  
site:西出・東出



京都まちづくりコンペ 参加  
→途中離脱

小論文  
『領域感覚がもたらす景観とその実態』  
- 神楽園町山ノ手地区を事例として -



ゼミ旅行  
(篠山・伊根浦・加悦)  
→佳作入賞

小論文  
『景観について』  
teacher:山崎寿一  
浅井保



授業「神戸建築学」  
・陣内秀信先生  
- 歴史とロマンからまちづくり  
- 環境と場所 -

卒業制作課題  
『京都の景観』  
teacher:山崎寿一  
Kim Duhan  
竹田和樹



原広司先生  
- 環境と幾何学 -

近畿支部論文  
『道下調査報告(1)』



2月  
・群島の風景 × 港町の當み = 多文化景観  
祭りには多くの観音者  
頻繁に発生する社交

Report  
『句感』  
- 京都上賀茂・葵之森の廻遊式林間学校 -



1月  
・環境と植物 -

Report  
『祭りにみるミニコトニーの可視化』



2月  
・能登半島地震被災集落・道下における  
居住性と生活支援窓口 -

Report  
『能登半島地震被災集落・道下における  
居住性と生活支援窓口』



3月  
・新規支部論文  
『祭りにみるミニコトニーの可視化』

Report  
『2009年夏祭り調査報告(1)』



1月  
・能登半島地盤被災集落・道下における  
居住性と生活支援窓口 -

Report  
『能登半島地盤被災集落・道下における  
居住性と生活支援窓口』



2月  
・能登半島地盤被災集落・道下における  
居住性と生活支援窓口 -

Report  
『能登半島地盤被災集落・道下における  
居住性と生活支援窓口』



3月  
・新規支部論文  
『祭りにみるミニコトニーの可視化』

Report  
『2009年夏祭り調査報告(1)』



1月  
・能登半島地盤被災集落・道下における  
居住性と生活支援窓口 -

Report  
『能登半島地盤被災集落・道下における  
居住性と生活支援窓口』

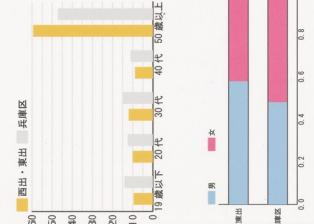


2月  
・新規支部論文  
『祭りにみるミニコトニーの可視化』

Report  
『2009年夏祭り調査報告(1)』



共同調査結果 & 共同テーマ『あつちで こつちで』



△世界別人口構成  
高齢化の傾向が進んでいます。特に、東洋圏では、子供の出生率と同時に高齢者の割合が増えており、日本は世界で最も高齢化した国です。  
△男女比  
男女比の割合は、つまり、男性の人口／女性の人口（世界衛生機関） 8.7倍とされています。つまり、高齢者の一人の家庭にいる場合、夫婦の比率は約1：8.7の割合で、夫の多い家庭が多いのです。

男女比

△空地  
災後、全壊した建物が取り壊され、空地となっている。駐車場や園芸などとして利用される形もあるが、そのまま放置されているものも少なくない。それゆえ市街の面影は、数も7から8に減少している。差込と並んで、かつての風景を取戻すがテレシャルはまだに残っている気配を感じる。

空地

The figure is a map of a city area, likely a satellite or street view, showing a complex network of streets and buildings. The buildings are grouped into four distinct color-coded clusters: blue, green, yellow, and orange. These clusters represent different neighborhoods or districts. Several red arrows are overlaid on the map, pointing towards specific locations along a major north-south axis. One arrow points from the bottom left towards the center, another from the center towards the top right, and a third from the top right back towards the center. These arrows likely indicate movement patterns or specific points of interest within the urban landscape.

現在では廃出・棄出地刷毛を無視した開発は、

古くから開拓された兵庫津の港町は、現在では西出・東出に埠に残るのみとなっている。現存する地蔵を無視した開拓免は、時代の移り変わりを色濃く残す兵庫津の記憶を消さない。時代の計画が求められる。

The diagram consists of three panels arranged vertically, each showing a stylized city grid with buildings and infrastructure.

- Top Panel (future):** Shows a dense grid with a red diamond-shaped building in the top-left. A large orange arrow points upwards and to the right. The word "future" is written vertically along the right side. Annotations include: "・駅が建てる", "・駅が建つき", and "・計画地図が目に見える".
- Middle Panel (present):** Shows a grid with a red diamond-shaped building in the top-left. A large orange arrow points upwards and to the right. The word "present" is written vertically along the right side. Annotations include: "① 田舎に迷い出でる", "② 駅を介して空港を利用する", and "③ ドックを運営する".
- Bottom Panel (past):** Shows a grid with a red diamond-shaped building in the top-left. A large orange arrow points upwards and to the right. The word "past" is written vertically along the right side. Annotations include: "交通機能が充実した" and "交差点、スクエアが分離された".

A large curved arrow labeled "solution" points from the bottom panel towards the top panel, indicating a progression or solution from past to future urban development.

◆ 男女比  
男の割合よりも、女児の割合が大きい。つまり、性別による出生率の差がある。これは、女性の平均年齢が高いためである。

◆ 世代別人口構成  
働き盛りの人口が少ない。つまり、同じ世代でも特に少子化が進んでおり、出生率が低い。そのため、少子化によって、人口が減少していく。一方で、高齢者の割合が高くなっている。つまり、少子化によって、高齢者の割合が高くなる。

男女比

△空地  
災後、全壊した建物が取り壊され、空地となっている。駐車場や園芸などとして利用される形もあるが、そのまま放置されているものも少なくない。それゆえ市街の面影は、数も7から8に減少している。差込と並んで、かつての風景を取戻すがテレシャルはまだに残っている気配を感じる。

空地

A map of a city area showing a dense network of streets and buildings. The buildings are color-coded into clusters: blue, green, yellow, and orange. Red arrows point to specific locations along the main north-south axis, indicating areas of interest or change.

future

・分断が解消される  
・輪郭が明確になる

suggestion

① 田園都市風の街へ人口がなる  
② 地域活性化する  
③ ドック型施設を複数設ける

present

交通、機能面で実現した

solution

南北の一体感を意識できる

past

スケーリング、開発が行なっている

開拓・拡張・開拓が進んでいた

◆ 男女比  
男の割合よりも、女児の割合が多い。出生率の高い地域では、出生率が低い地域よりも、出生率が高い。出生率が高い地域では、出生率が低い地域よりも、出生率が高い。  
△ 世代別人口構成  
働き盛りの人口が少ない。つまり、同じ世代でも特に少子高齢化が進んでおり、出生率が低い。一方で、高齢化が進む一方で、高齢者層の人口が増加している。つまり、高齢化が進む一方で、高齢者層の人口が増加している。  
△ 性別による出生率  
性別による出生率は、男女ともに高い。しかし、女性の出生率が男性の出生率よりも高い。つまり、女性の出生率が男性の出生率よりも高い。

男女比

△空地  
災後、全壊した建物が取り壊され、空地となっている。駐車場や園芸などとして利用される形もあるが、そのまま放置されているものも少なくない。それゆえ市街の面影は、数も7から8に減少している。差込と並んで、かつての風景を取戻すがテレシャルはまだに残っている。

空地

The diagram illustrates the progression of urban planning through three stages:

- Past:** Represented by a grid of buildings and infrastructure, showing a focus on horizontal connectivity.
- Present:** Represented by a more complex grid with vertical roads and green spaces, indicating a shift towards vertical integration.
- future** (Top): Represented by a dense network of interconnected roads and green spaces, emphasizing a highly integrated and sustainable urban form.

A large curved arrow labeled "solution" points from the Past stage towards the future stage, with the text "南北の一体感を意識せざる" (Without considering the sense of integration between north and south) written along its path.

Below the stages, a timeline shows arrows pointing from Past to Present and from Present to future.

**suggestion**

- ① 田園都市主義へ市街への人口となる
- ② 地域活性化し、空間的統一性をもつ
- ③ ドック型施設で海をつなぐ

**スケーリング:** 市街が成長している  
規則・秩序・構造の確立が進んでいく  
規則・秩序・構造の確立が進んでいく

◆ 男女比  
男の割合よりも、女児の割合が多い。出生率の高い地域では、出生率が低い地域よりも、出生率が高い。出生率が高い地域では、出生率が低い地域よりも、出生率が高い。  
△ 世代別人口構成  
働き盛りの人口が少ない。つまり、同じ世代でも特に少子高齢化が進んでおり、出生率が低い。一方で、高齢者層の割合が高くなっている。つまり、高齢者層の割合が高くなる。  
△ 男女比  
男の割合よりも、女児の割合が多い。出生率の高い地域では、出生率が低い地域よりも、出生率が高い。出生率が高い地域では、出生率が低い地域よりも、出生率が高い。  
△ 男女別人口構成  
働き盛りの人口が少ない。つまり、同じ世代でも特に少子高齢化が進んでおり、出生率が低い。一方で、高齢者層の割合が高くなっている。つまり、高齢者層の割合が高くなる。

男女比

△空地  
災後、全壊した建物が取り壊され、空地となっている。駐車場や園芸などとして利用される形もあるが、そのまま放置されているものも少なくない。それゆえ市街の面影は、数も7から8に減少している。差込と並んで、かつての風景を取戻すがテレシャルはまだに残っている気配を感じる。

空地

The figure is a map of a city area, likely a satellite or street view, showing a complex network of streets and buildings. The buildings are grouped into four distinct color-coded clusters: blue, green, yellow, and orange. These clusters represent different neighborhoods or districts. Several red arrows are overlaid on the map, pointing towards specific locations along a major north-south axis. One arrow points from the bottom left towards the center, another from the center towards the top right, and a third from the top right back towards the center. These arrows likely indicate movement patterns or specific points of interest within the urban landscape.

The diagram illustrates the progression of urban planning through three stages: past, present, and future.

- Past:** Represented by a grid of buildings and roads. A blue arrow labeled "solution" points from the past towards the present. The text "スケーリング・アーキテクチャが存在している" (Scaling architecture exists) is written above the past stage.
- Present:** Represented by a more complex grid with additional infrastructure like parks and water bodies. A red arrow labeled "solution" points from the past towards the present. The text "交通・機能面で実現された" (Achieved in terms of traffic and function) is written above the present stage.
- Future:** Represented by a highly developed urban area with extensive green spaces, water bodies, and a well-connected road network. A yellow arrow labeled "solution" points from the past towards the future. The text "・分断が解消される" (Division is resolved), "・輪郭が削除される" (Boundary is removed), and "・計画が明確となる" (Planning becomes clear) is written above the future stage.

A large curved arrow labeled "solution" spans from the past to the future, indicating a continuous process of evolution. Below the arrows, the text "南北の一体感を意識せざる" (Without considering the integrated sense of南北 (North-South)) is written vertically.

◆ 男女比  
男の割合よりも、女児の割合が大きい。つまり、性別による出生率の差がある。これは、女性の平均年齢が高いためである。

◆ 世代別人口構成  
働き盛りの人口が少ない。つまり、同じ世代でも特に少子化が進んでおり、出生率が低い。そのため、少子化によって、人口が減少していく。一方で、高齢者の割合が高くなっている。つまり、少子化によって、高齢者の割合が高くなる。

男女比

△空地  
災後、全壊した建物が取り壊され、空地となっている。駐車場や園芸などとして利用される形もあるが、そのまま放置されているものも少なくない。それゆえ市街の面影は、数も7から8に減少している。差込と並んで、かつての風景を取戻すがテレシャルはまだに残っている気配を感じる。

空地

# 浮き津橋



慌しく動く街中に  
取り残されたように存在するまち  
西出東出

外界とはうって変わり  
時間がゆるやかに流れる

歩行者が安心して  
道端に出ることができることこの地は  
神戸の街にとっては貴重な保育の場  
そして老後生活に適した地である

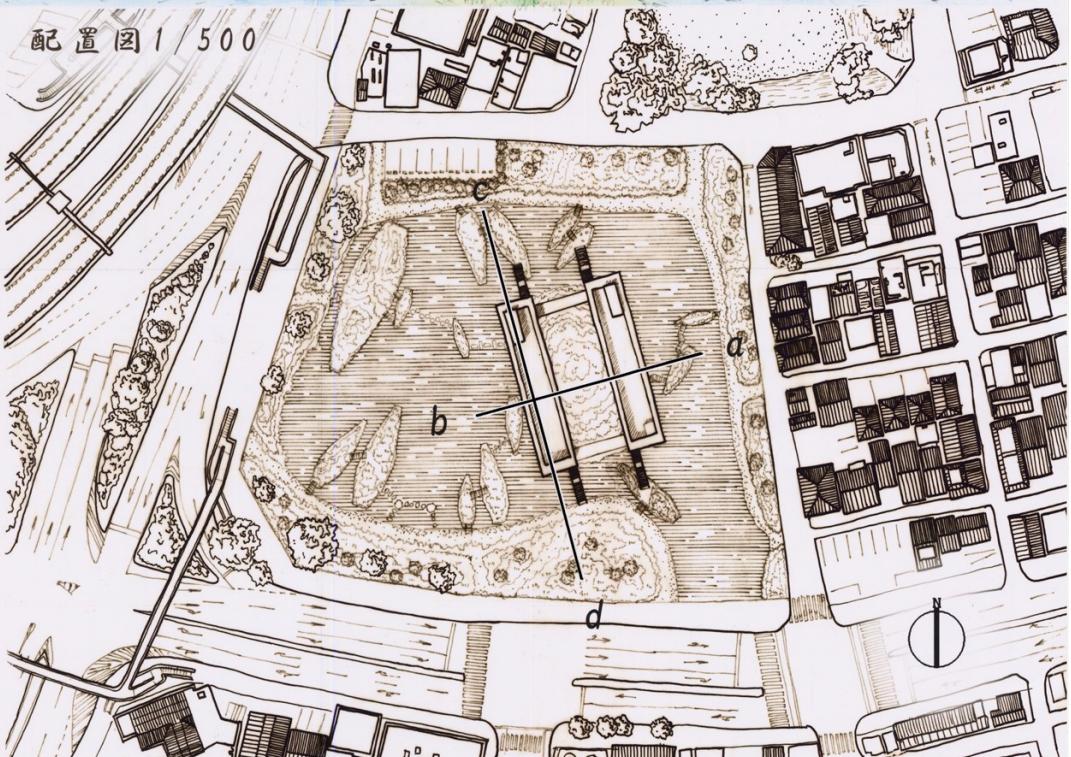
そこで  
住民を船と見立てた  
兵庫津の海を意識する  
「入り江（船の集まるところ）」  
「浮きドック（船を造るところ）」  
として児童遊園を提案する

姿を消す前の入江を池として復元し、  
停泊する船のようにビオトープを点在させることで、  
自然との触れ合いを促します。  
中央には現存の浮きドックをモチーフとした本館があり、  
屋上に近づくごとに海の風・展望を感じます。  
兵庫津における時代を超えた2つの海の意識が一体となり、  
やがて西出東出の新たな原風景として根付きます。

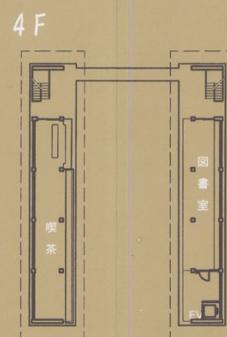
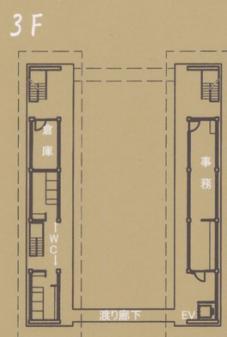
1880年頃 2009年現在  
+ 入江 浮きドック

館内には児童図書と喫茶、福祉事務室があり、  
児童のための図書の貸し出しや  
中央広場におけるふれあいイベントが  
定期的に行われます。  
2階は池を横断する橋として開放し、  
壁面間にあるブースは自由に利用され、  
行き交う住民たちの交流の架け橋となります。

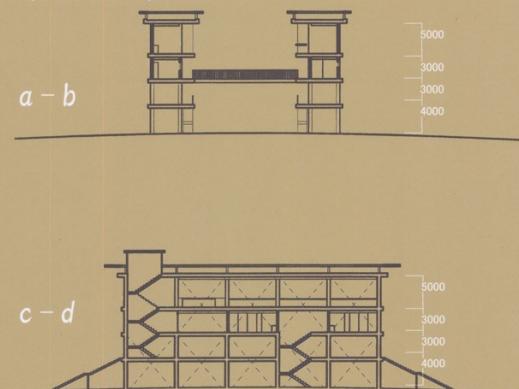
題名は天の川の船着場を意味する  
‘浮き津’という言葉を引用しました。



各階平面図 1/300

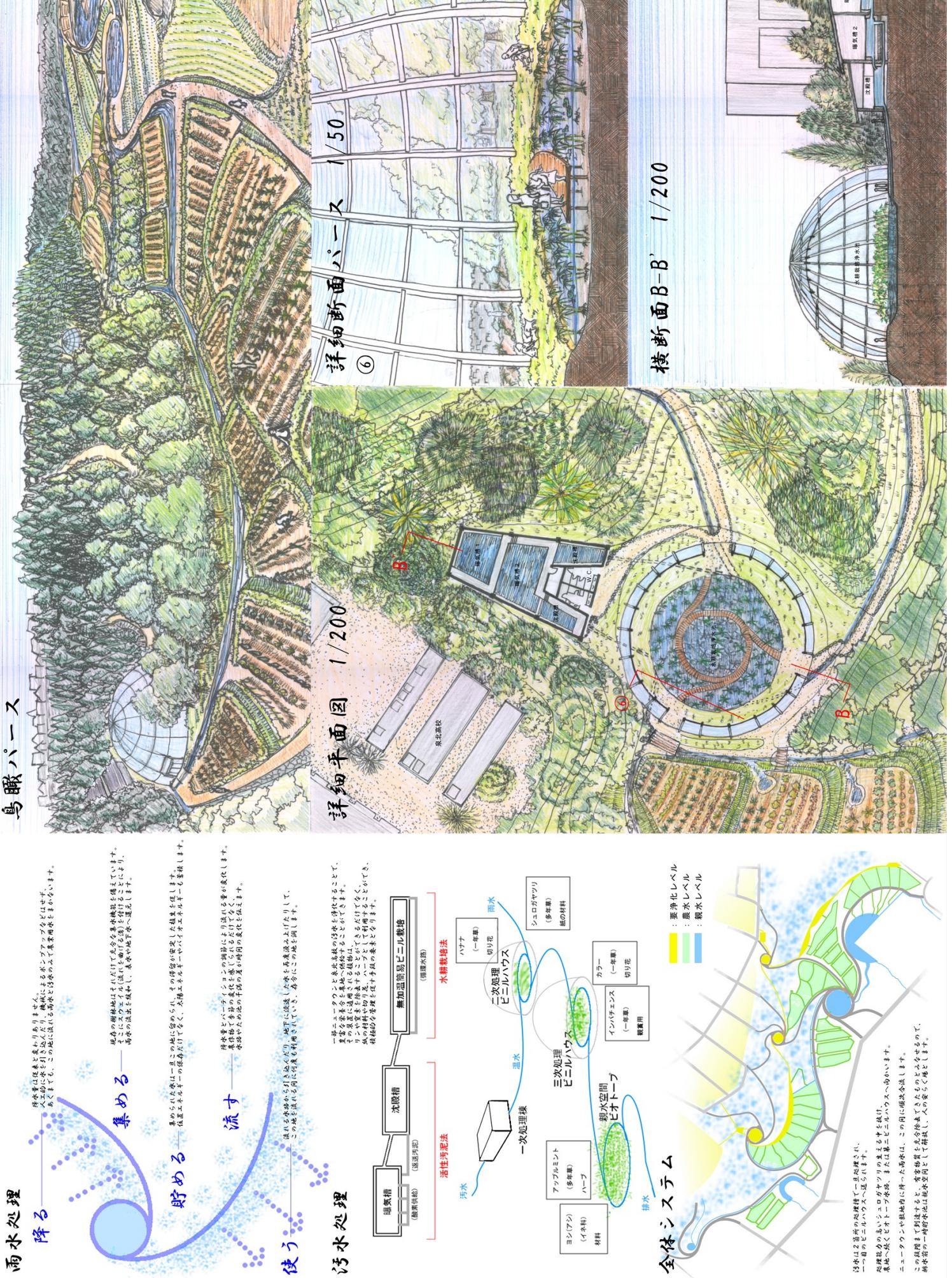


断面図 1/300



## 現状





## 1. 領域感覚を扱う諸概念

1. 領域感覚元  
ETIホールが、人間の間に一定の距離感と社会性があるが存在すると認めたこと。  
更に、個体距離、社会距離といつも感覚を通じて距離感がお互いに交換する。

2. 生息地  
動物にとっての生息地は「隠れ家」と隠すある所で、人間に隠れて生活するための距離感である。

3. 健康  
中国医療や日本医療の造園はほのひと。人間によろこびをもたらす美しいとするいう地理学者が似たる伝説。

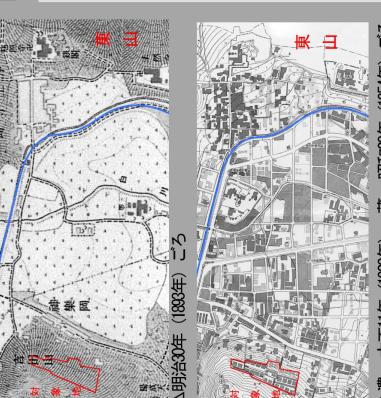
4. 風景  
位置の吉田山線の位置を決定するため用いられてきたもので、

風景の特徴を物の位置で制御する古代中國の思想。

生息地の風景が得られるよう理論化・抽象化といわれる。

## 領域感覚によつてもたらされる景観とその実態 — 神楽坂町山ノ手地区を通じて — 0614061t 白浜 晋平

### 2. 山ノ手地区の沿革



△歴史写真 (google map) △山ノ手地区

△大正11年 (1923年)、東 - 昭和28年 (1954年)ごろ



△大文字山から見た山ノ手地区

### 3. テリトリアスケープ』の定義

人間に社会的距離感のあるものや他の生物分けを行ふ概念が存在し、かみからそれごとに車が走行している。これら全て「領域感覚」の概念が、様々な方法で空間に応用している。これらが「領域感覚」の概念が、これらができるため、本研究では、この空間のことを「隠れ家」(トリアルスケープ)』と呼ぶ。

### 3. テリトリアスケープの構成

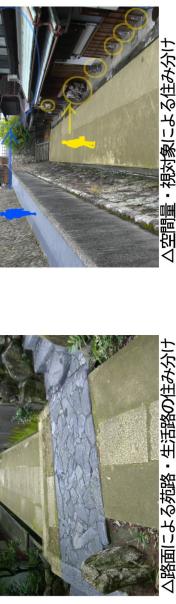


### 4. 山ノ手地区的現状



### 5. 結論

対象地区的構成が今まで前記したやの姿を保ち、車が走行できない。車体が隠され、配達は徒歩。住人の移動手段は2輪で、階段からは2輪を抱えて運ぶ。新築は合戻せの意識を感じるが、従来のそれとは違う。車道の問題で新規開拓へ者、建替えはなかなか進まない。



△住居跡から見た大文字

### 6. 山ノ手地区の現状

△細道に隠された車体

△車のアクセス、来訪者のアクセス、宅地の更新

△斜面領地隣接

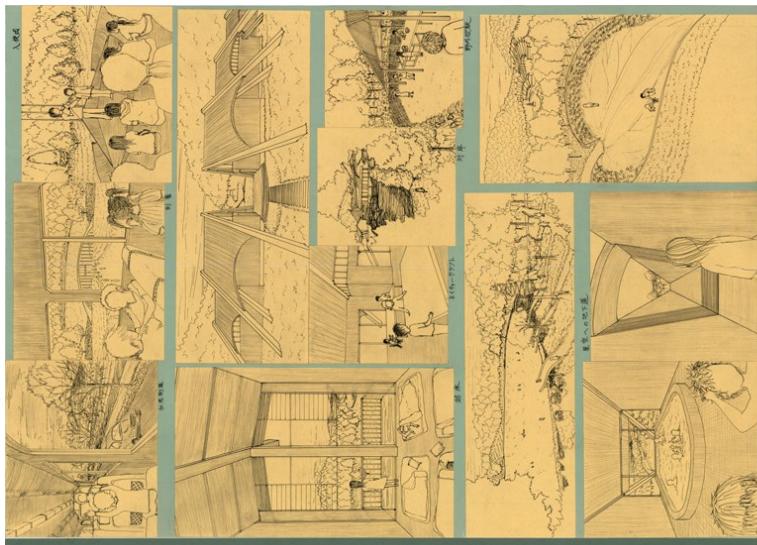
△細道に放置された自動車

△段差により隠れた車体

△世帯ごとの単位で計画された結果、領域にヒエラルキーが現れ、その領域の移り変わりの中で程よい心理的距離感を得られる。また、いくつかの庭園の概念に従って、領域感覚に働きかける表現が施されることによって、それが川河川なら景観が形成する。市中の山居としての面積は狭ることなく、今も尚身近な森林浴の場として愛されている。

時代の流れによって住環境の変化は免れないものの、表立った保全活動に頼らず景観維持能力は現状で技術的進歩を受けなければならないことにによる結果でもあるため、時代に取り残される可能性も秘めている。

過密によるストレスを抱える都市において、一人当たり面積で切り分けるような論理で物理的距離を取らうとする計画に頼らず、社会的領域感覚を意識した計画のもともに拡散していく必要がある。そのための見解は本研究の中で多く数見つかつたため、山ノ手地区のような空間を持つ側が、その景観を保ちながら現代技術を受け入れていく体制を整えていくべきである。



私たちが自分とどうしての関係を抱いてるか  
一度とらない一歩、進んで見えてもらいたいから。  
  
進ろになる瞬間への意識

人が自分の人生を前向きに生き、これまでの自己実現の歴史をもとに、  
自分自身をよりよく見えてもらいたい。それがこの「進む」ことだから、これまでに自己実現されていません。

進ろになる上質な人生

毎日が充実するためのアドバイスを提供する「人生の  
進む」企画です。

卷八

「筋」ことから「骨む」とことへ  
15年前、1000もの筋肉の問題を新規として発見な  
ったときの私は、四肢にして一歩も歩けない、人間にな  
れない状態で、死んでしまうことを心配していました。  
筋肉と骨をつなぐ筋肉を修復して生き残りました。

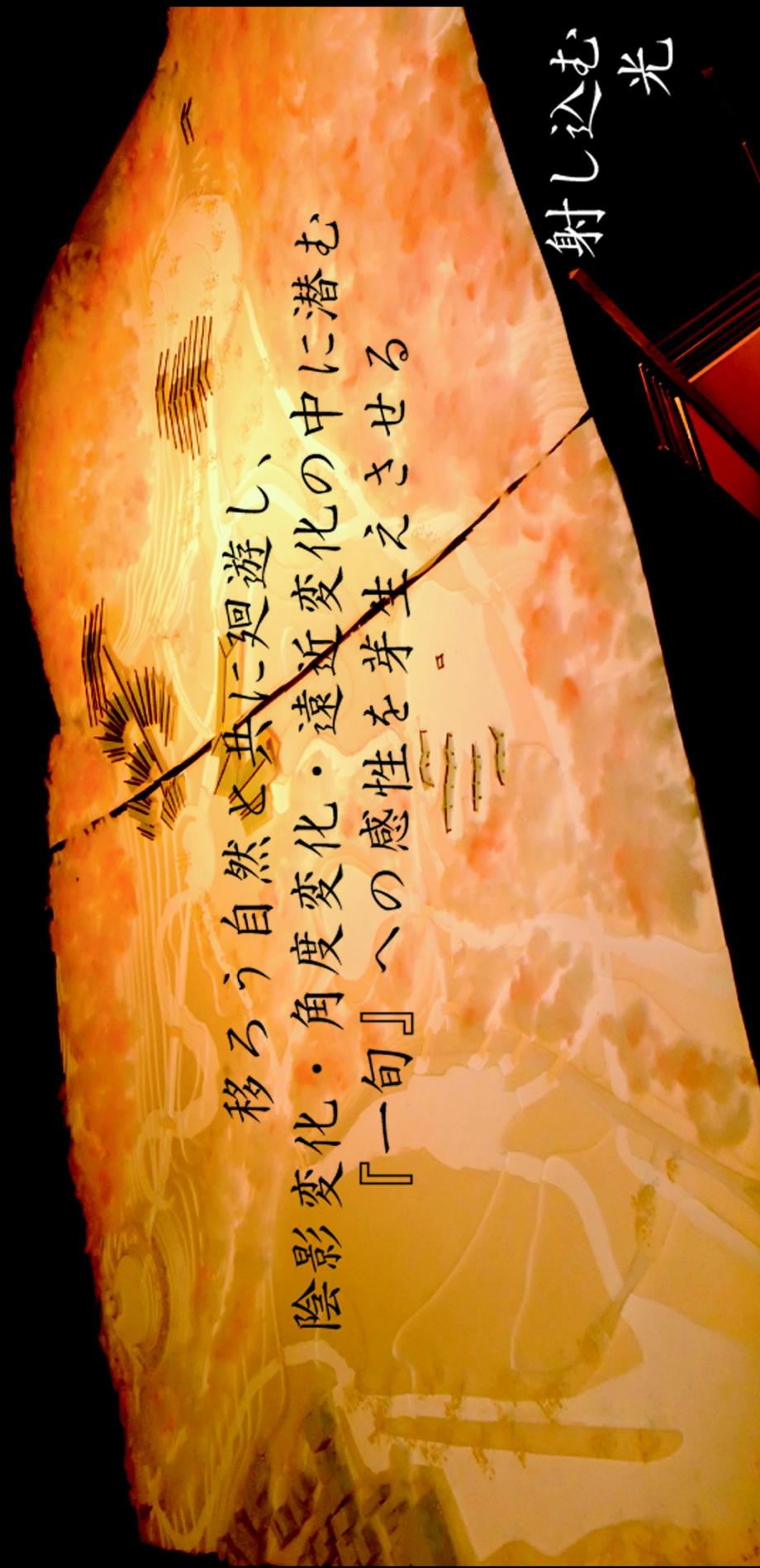


落ち込む影



射し込む光

移ろうう自然と共に廻遊し、中へ潜む  
影変化・角度・感性を『一匁』へ  
陰影近芽遠芽ええさき



# 毎日・DAS学生デザインコンペティション作品発表会



## 制作意図

京都市の風水環境は人々の交流を呼び、世界に誇る文化構造を作っていました。その風水の鬼門を守っているのが賀茂大社であり、毎年「葵祭り」と称して、多くの人々が自然環境の平穏を祈りに参拝しています。

しかし、その葵祭りを彩る双葉葵をはじめ、この賀茂川水域の自然環境は衰えつつあります。人々は人工的な環境に心が浸され、その二度と帰らない環境の変化に気付けずに一瞬一瞬を過しているのではないか。私はこの地の自然、人々の内なる感性を呼び覚ます環境を提案したいと考えました。

敷地は上賀茂神社境内裏に広がるゴルフ場です。この芝生の景色を教育プログラムを通じて双葉葵へ遷移させる林間学校とし、葵祭りの日には、上賀茂神社と一緒にとなって環境NPOや企業が企画を持ち込む環境祭の会場とします。

1400年の間環境を祈る場所であった上賀茂は今、その場その時の『旬』を紡ぎ次ぐ場所として、新たな歴史を刻んでいきます。



## 作品解説 (素材・など)

### 虚ろになる環境への意識

人々は人工的な環境に心が浸され、人との関わりや自然に対する感性が希薄になっている。

### 空ろになる上賀茂の生態

環境の平穏を祈る『葵祭り』の地においても、それを彩る双葉葵の減少が、その生態環境の変化を物語る。

## 時代の中での位置付け

(678) 上賀茂神社 社殿の基 造営

(794) 平安京 還都

•

•

•

(1939-45) 第二次世界大戦

(1946) 上賀茂ゴルフ場 造成

双葉葵の減少

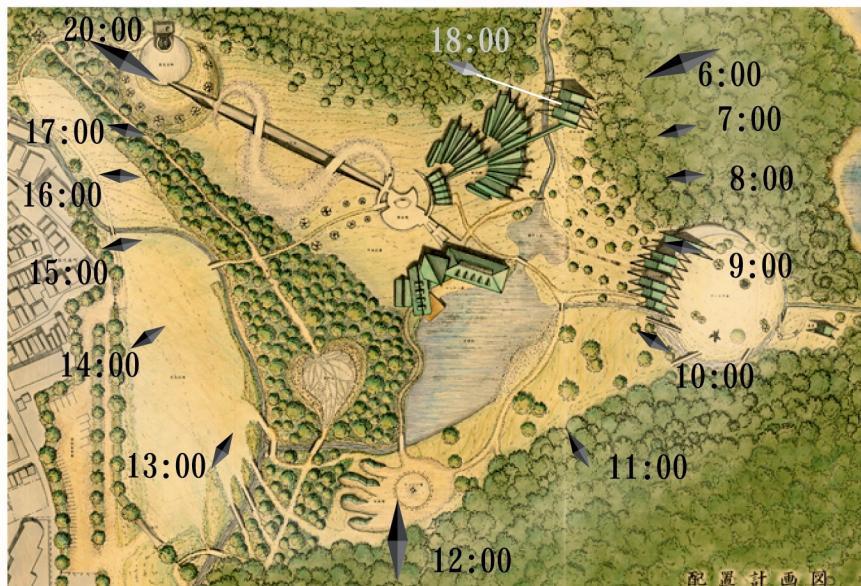
自然への感性と自然そのものを育む林間学校

21世紀 人間を含む環境総体の再生

### 「祈る」ことから「育む」ことへ

1400年の間、環境の平穏を司ってきた上賀茂は今、人間を含む環境総体を蘇らせる地として生まれ変わる。

それは工学的な装置ではない、環境認識に訴えかける刻時システム。



### 林間学校の廻遊プログラム

日周時間軸に沿って活動の場が移ろう。

6:30 起床・身支度 13:30 片付け

7:00 ラジオ体操 14:00 広場遊び

7:30 朝食 17:00 夕べの集会

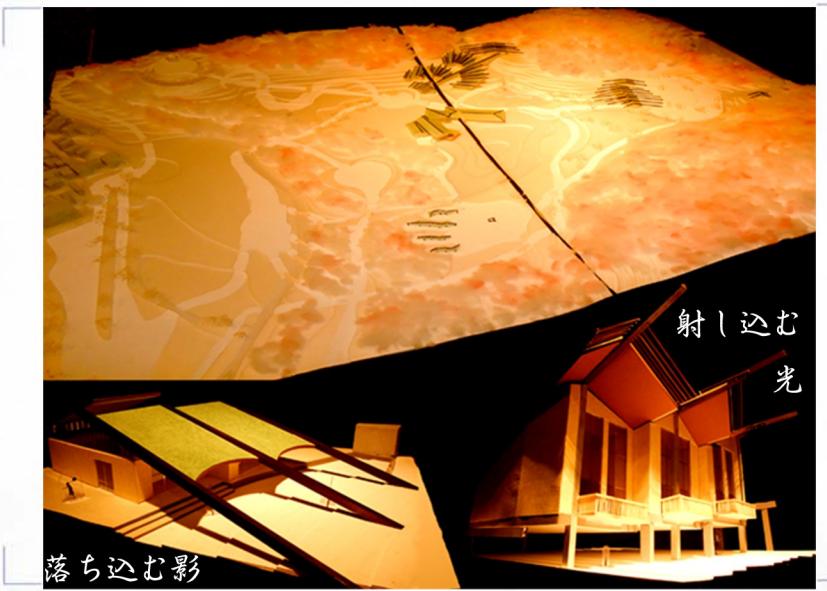
8:30 クラフトワーク 18:00 入浴

11:00 林道散歩 19:00 夕食

12:30 野外調理 20:00 星空観察

13:00 昼食

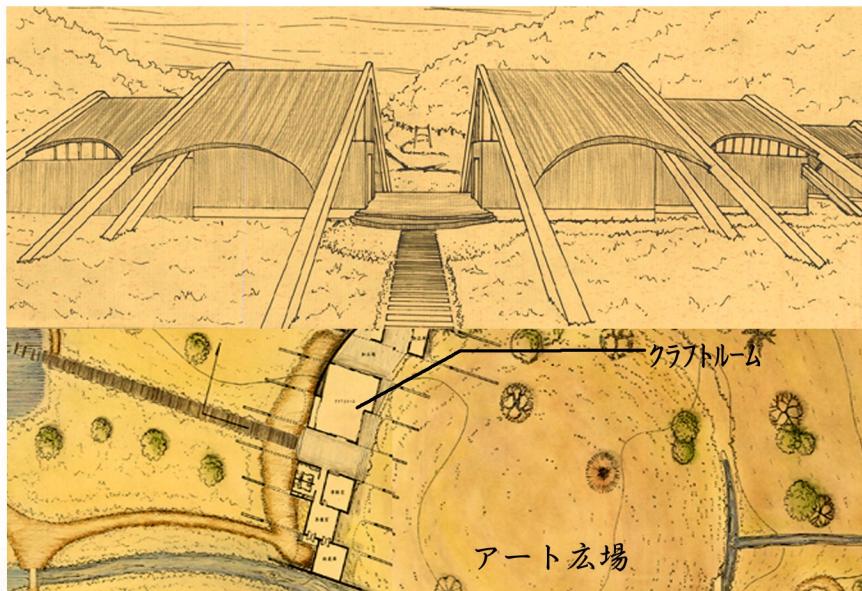
22:00 就寝



## 作品解説 (素材・など)

### 陰影の変化

自然の動きは連続的である。  
レドスケープはその全てに応じない。  
風景が時折見せる「輝き」や「はかなさ」  
の一瞬を切り取り、抽象化する。  
太陽のスポットライトを浴びて、それぞれの  
陰影は刻々と変化する。



### 遠近の変化

歩み寄る度にその姿を変える建築は、  
視覚的空间体験と肉体的運動が分離した  
現代人を、空間的距離感の世界へ引き戻す。

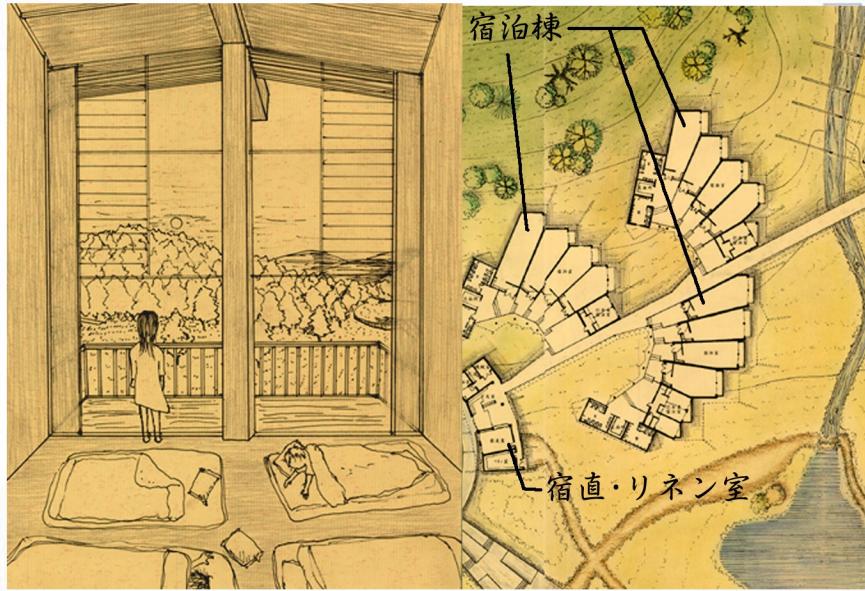
環境認知における「歩行」の復権。



### 角度の変化

放射状に配置する建築群は、移ろい巡る子供達や自然の変化に対して、固定した立ち居地を保つ。

子供達は、相対的にその環境が持つ多角的な表情の存在を認知する。



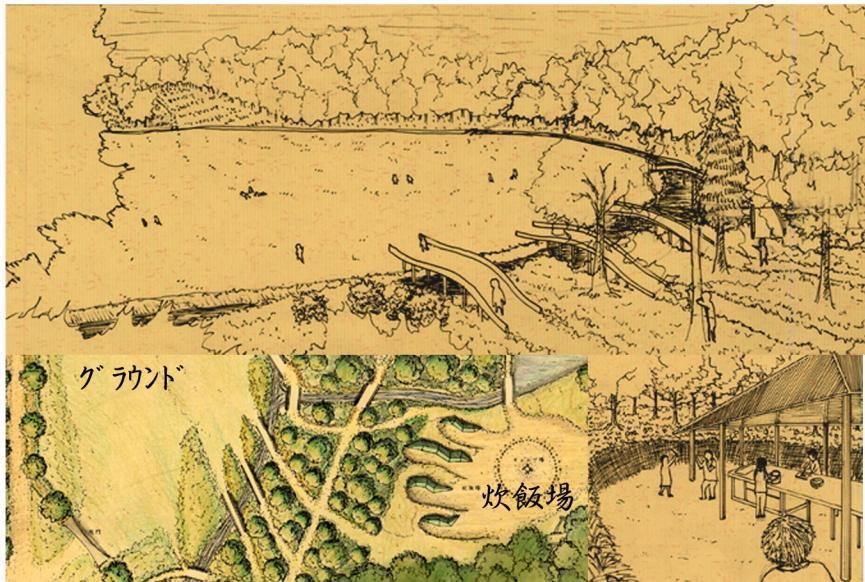
### 作品解説 (素材・など)

#### 朝日で目覚める

その日、その時間にしか体験できないこと=『旬』である。

それぞれの『旬』を体感して記憶することで、その時間は子供達の中で永遠のものとなる。

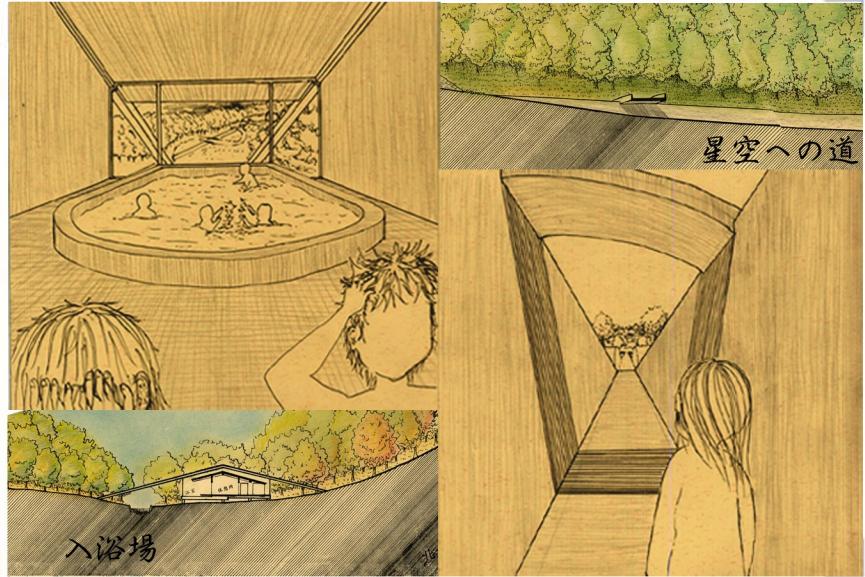
宿泊棟には、朝になると急激に朝日が射しこみ、ルーバーの影が臉を叩く。



#### 青空の下、遊ぶ

クラフト作業では自然の素材に触れ、野外炊飯では自然の食材に触れる。

木肌や土草、そばを流れる水全てには、自分と同じように温もりや潤いがあることに気付く。



#### 夕日を浴びて汗を流す

沈む間際、太陽は子供達にその日の終わりを告げるかのように強く輝く。

#### 星空に思いを馳せる

夕食を済ませ外に出ると、すっかり星空になっている。静かに天を仰ぐ。



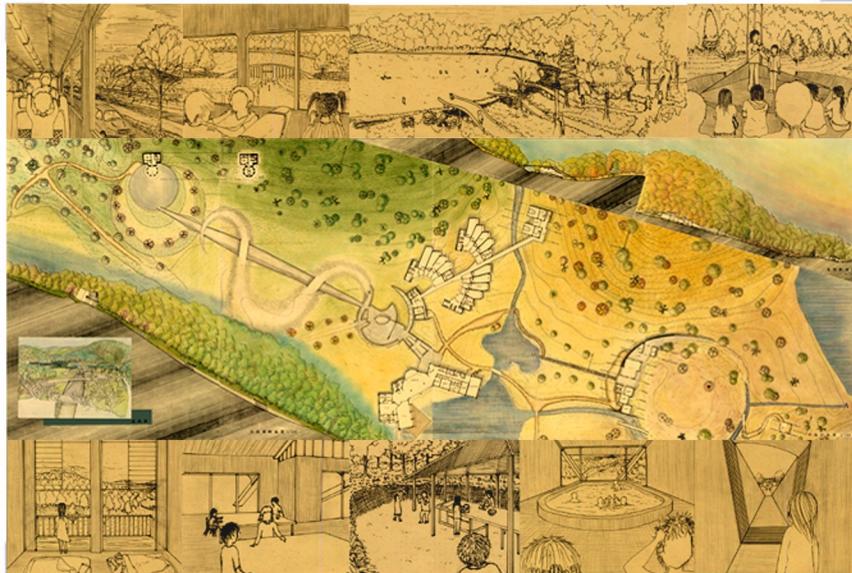
### 作品解説 (素材・など)

#### 環境教育の蓄積

構内には上賀茂神社からご親睦へ繋がる緑道が存在する。

その中央には花壇に包まれた丘があり、葵が敷き詰められている。

子供たちは、ここで葵の株分けを行う。



#### 環境活動の蓄積

春 葵祭りの一部となる。

NPOや企業が集う環境祭を行う。

夏 夏季合宿として子供達が滞在。

葵を株分けし、持ち帰る。

秋 育てられた葵は子供達の手により、再びこの地に植わる。

冬 一般開放。各々の活動に利用する。



#### 環境再生の派生

訪れた子供達の数だけ葵は増え続け、やがてゴルフ場の芝生は葵の風景へと遷移される。

銅葺きの屋根は、その赤銅色の姿からゆっくりと色褪せ、その時間の経過と共に緑青色へと表情を変える。